

科目区分（学校教育に関する科目） 臨床心理査定演習Ⅱ

授業題目 「メタ認知とアセスメント・スーパービジョン」

教育実践総合センター 夏野良司

はじめに

本授業は、前期の臨床心理査定演習Ⅰに続き、投影法的手法をとる検査法を扱うものである。また、後期に集中講義で行われる投影法特論のロールシャッハ検査の学習ともリンクしており、授業の後半はロールシャッハ検査の実施と結果のスコアリング集計までを扱う計画となっている。

学部での心理テストを学んでいない学生が半分含まれるので、授業では投影法の典型的検査のいくつかを取り上げて演習・講義を行う。

それによって、学生には、検査に対する関心が惹起され、心理検査という鏡に自己を対象化し分析し見つめる作業が促されるであろう。

このことは、専門的対人支援者となるために必要な、被支援者の心理学的世界への積極的関与を高めるであろうし、さらには、専門的な支援者に必要なメタ認知-対象との程適いスタンスをキープするスキルを育てると考える。

【授業担当者】

臨床心理学コース専任教員 2名

【方法・対象】

（対象）授業は、学校臨床心理専攻臨床心理学コースの必須科目に当たり、受講生は臨床心理学コース7名。

【検査】

心理臨床の実際において使用頻度の高い検査法を取り上げる。テスターとして施行し、臨床心理的所見をレポーターとして作成する知識技術を習得させる。どの検査もまず学生が被検査者の立場で自己データを分析することで、投影法による査定で重要なアセサー、「解釈」即ち「理解」する者としての力量を養う。

今回、実施した検査は、バッテリー法（5因子検査FFPQ、YG性格検査、精神健康調査GHQ、東大式エゴグラムTEG）、投影法（ロールシャッハテスト、主題統覚検査TAT、絵画欲求不満検査P-F、文章完成法テストSCT、樹木画検査）である。

【授業スケジュール】

- 1 オリエンテーション
- 2 人格査定とバッテリー法
- 3 人格査定：5因子論と自我構造
- 4 絵画欲求不満検査PF（1）
- 5 絵画欲求不満検査PF（2）
- 6 樹木画テスト
- 7 文章完成法テストSCT
- 8 主題統覚検査TAT（1）
- 9 主題統覚検査TAT（2）
- 10 ロールシャッハ（概説）
- 11 〃（施行法演習）
- 12 〃（テスト施行）
- 13 〃（スコアリング演習）
- 14 〃（スコアリング演習）
- 15 まとめとアンケート

【結果】

回答者全員7名、自由記述式によるアンケートである。回答は、いくつかの観点で整理すると以下のものであった。

（授業内容）

- ・一個一個の検査について体験的に学ぶことができた
- ・どの検査も楽しく学ぶことができ、自分への興味が強いことを再認識した。
- ・すべてのテストにおいて実物に触れることができたのは非常に勉強になった

・自分のデータをもとに解釈を行うので、自分の新たな一面を知る機会にもなり楽しかった。

・自分で体験してみて、各テストの精度や限界、また被検査者に与える負担の度合いなどを感じ取ることができ、バッテリーの組む際の参考になった。

・TATとSCTは解釈がとても難しいと思ったが、非常に面白かった。

・バウムテストでは色々な実際事例を見せてもらったので面白かった。

・SCTは自分にとってとても楽しい検査だったが、TATはちょっとしんどかった。

・P-FとTATが自分にはとてもおもしろかった。他の受講者に自分の結果を話したかった。

・自分の結果について個別にアドバイスがほしい

(授業方法)

・テスター役割を取って模擬的に検査実施できたことは将来役にたつと思う

・ワークが多く検査に対する具体的なイメージや留意点が理解しやすかった

・心理テスト実習は、学部時代に経験していないので自己分析にもつながりとても有意義だった

・種々の検査を実際に自分がやってみることで、テストの気持ちを感じることができたし、検査のねらいや意図がイメージすることができた

・色々なテストを実施できてよかった、特にTATははじめてだったが、テスト体験は面白かった

・授業内だけでは時間が足りないので、宿題にできる部分は宿題に廻す方法もあると思う

(授業場所、時間、運営方法等)

・心理検査については、もっと授業時間を多く取ってもよいと思う

・2コマ連続で授業が組まれている時間に融通が付けられ、どのテストも最後まできっちり実施できて勉強になった

(使用テキスト、教材、資料等)

・解釈に役立つ事例や資料など多くの資料を配付してもらったので、授業後の自主学習にとっても役

に立った。

・テスト毎に複数の専門家の文献を配布されたので偏らない考え方ができたと思う

・必読資料を配布してもらえて各心理検査のエッセンスが吸収できた

・バウムテストでは具体的な沢山の実際の検査資料をみせてもらえてわかりやすかった

・実際にこれから使える文献資料をいただいたので、生かしていきたい

(その他)

・解釈したものを文章にまとめるのは、難しいことだと改めて感じた。

・素人にはできないことなので、心理の専門家を目指す者として知識をもっと深めたい

・クライアントの条件に応じた適切な検査の活用の仕方をこれから考えていきたい

【まとめ】

本授業で、色々な検査を扱うことにはポジティブな評価であると言えよう。また、テストによっては、学部で既に学んだ者もいるが、既習の学生にとっても、改めて自分のデータをとってみて、自分の変化を確認することができたとの意見があった。間隔を置いて、自分のデータを採ってみることは、自分の成長や変化をテストの上に映し見ることであり、臨床家としての自己分析の一助になるだろうし、またその検査の信頼性や妥当性を自分を被験者にして検証する作業ともなっていると見えよう。自分を対象化し分析する作業はしんどいという意見もあるが、相当好意的な意見が多かった。

どの検査においても、自己のデータを採り、分析し、解釈し、レポートする作業を課し、そして、その上でアセスメント・スーパービジョンを受けることが実現すれば、冒頭に書いた、専門的支援者としての対象への「積極的関与」と「メタ認知」力を高めるのには理想的な授業であろう。